



当院の緩和ケア病棟が再開しました。

緩和ケア内科

中山 啓



当院では2009年から緩和ケア病棟において専門的緩和ケアの提供を行ってきました。

(※専門的緩和ケアでは、疾患や年齢を問わず、必要とするすべての患者さんご家族に提供されるべき基本的緩和ケアで、緩和することが困難な複雑な症状や状態に対応します。)しかし、2021年10月に緩和ケア病棟が閉鎖となつてからは、緩和ケアチームによる一般入院患者さんへの緩和ケア提供を行っていました。

昨今は自宅退院を希望していても、介護するご家族が高齢であったり、自宅の療養環境が整っていなかったりと、なかなか退院調整が進まない患者さんや、いったんは退院できたものの、調子が悪くなればすぐに入院が必要となる患者さんが多くみられていました。患者さんご家族が望む場所で落ち着いて緩和ケアを受けることが出来ないことも多く、そのような方々の受け入れ先として緩和ケア病棟の再開を希望する声が聞かれていました。

今回、2024年10月から緩和ケア病棟を再開し、専門的緩和ケアの提供を行うことが出来るようになりました。病床数は18床⇒12床と少なくなりましたが、全室個室となり落ち着いて療養することが出来ます。COVID-19やインフル

エンザなどの流行もありますが、基本的にはご家族には体調管理をしてもらいつつ、自由に面会をして

いただくことができています。自宅で訪問診療を受けながら、事前に緩和ケア病棟の説明を受け、必要時にはすぐに入院できるバックベッドとしての利用も可能です。緩和ケア病棟の利用を希望される場合は、いつでも地域医療連携室への紹介や問い合わせをいただきますよう、よろしくお願いいたします。



研修・講演・学習会のご案内



1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

日 時：2月18日（火） 19:00～20:00

※2月の第2火曜日は祝日のため、第3火曜日の開催となります。

場 所：当院3階 講堂

1) 症例検討

『包括的高度慢性下肢虚血と冠動脈病変を併発した1例』

循環器内科 高嶋 勇志

2) ミニレクチャー

『近視の進行予防と治療について』

眼科 山田 芳博

近視の発症には「遺伝的要因」と「環境要因」の両方が関与すると考えられています。環境要因としては、近距離での作業の増加や屋外活動の減少が指摘されています。特に近年では、パソコン、タブレット、スマートフォンの長時間使用が悪影響を及ぼすと考えられており、対策の必要性が議論されています。

最近の調査では、裸眼視力が1.0未満の子どもの割合が年々増加しており、小学生では3割を超え、中学生では6割、高校生では約7割にのぼると報告されています。さらに、病的近視に進行すると、視神経や網膜が障害され、矯正しても視力が回復しない場合や、高度な

視野狭窄を伴うことがあります。このような状態は失明に近い状況を引き起こし、日常生活動作（ADL）に深刻な支障をもたらします。

また、近視に関連する眼科的検査や眼鏡の矯正にかかる医療費も年々増加しており、医学的および社会経済的な影響が懸念されています。

こうした現状をふまえ、近視の進行を早期から予防するための様々な方法が検討されています。本レクチャーでは近視の原因や病態について説明し、近視進行抑制治療として有効性と安全性が確認されている治療法についてご紹介いたします。

予告

日 時：令和7年3月11日（火） 19:00～ ハイブリッド開催

場 所：当院3階 講堂

内 容：①症例検討 1例 （担当） 整形外科

②ミニレクチャー 1題 （担当） 放射線科

2. 糖尿病研究会

日 時：令和7年2月20日（木） 17:45～18:30

場 所：当院3階 301会議室

テーマ：こんなにあったんだ！糖尿病薬

講 師：当院薬剤師



作：病院ボランティア 篠崎 佳子



研修医のひとりごと

研修医 矢田 昂大



富山市民病院研修医の矢田と申します。研修医の生活は医学の世界への第一歩であり、深い感動と学びに満ち溢れた日々の集合体でしたが、その日々は喜びと苦勞が入り混じっていました。上手くいくことはほんの少して、ほとんどは失敗の連続でした。そんな中でも、自分に出来ることは何だろうと考え続け、目の前の患者さんのために日々研鑽を積んでま

いりました。

春からは放射線科専攻医として北陸で働きます。臨床科をサポートできるよう精進してまいりたいと思います。

愉快的仲間たちとこの病院で研修できたことは、私の生涯の思い出です。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

2月

科 名	医 師 名	不 在 日	科 名	医 師 名	不 在 日
内 科	水 野	21日	整 形 外 科・ 関 節 再 建 外 科	堀 井	21日
	浅 野	3日、17日、18日		重 本	14日
外 科	宮 下 知	14日		岡 本	14日
産 婦 人 科	田 中	3日、4日、17日、18日	麻 酔 科	松 浦	26日
歯 科 口 腔 外 科	寺 島	10日、26日	呼 吸 器 ・ 血 管 外 科	湖 東	10日
	朽 名	5日、17日、27日、28日		土 岐	7日
	石 坂	14日	小 児 科	和 田 拓	14日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

最大9連休となった年末年始ですが、帰省や遠出された方も多いのではないのでしょうか。私は家族とゆっくり過ごすことができました。

毎年我が家では、この時期になると、味噌作りをはじめます。大豆を茹で、温かいうちに潰し、塩・水・麴を加えてよく混ぜます。涼しい場所に樽をおいて一年程熟成させます。おいしくなるように心をこめて作っています。自分で作ったお味噌は格別においしく、体も心も温まります。今年も一年、健康で元気に過ごしたいものです。

薬剤科 小松 智美

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。
送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112 (代) / FAX 076 (422) 1154

メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> / がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

